

「第 1 回大山ダムモニタリング部会」議事内容

日 時：平成 22 年 3 月 9 日（火）13：00～15：45

場 所：独立行政法人水資源機構大山ダム建設所 会議室

出席委員：小野充之、小野孝、神川建彦、吉良今朝芳、古賀憲一、財津博文、佐々木茂美、
佐藤仁藏、白石哲、平野宗夫（五十音順、敬称略）10 名

1. 設立趣旨・規約の審議

設立趣旨および規約が、事務局案のとおり制定された。

2. 部会長選出

部会長は、委員の互選により、平野宗夫委員が選出された。

3. 大山ダム建設事業の実施状況

大山ダム建設事業の実施状況が、事務局から報告された。

4. 平成 21 年度環境調査結果

平成 21 年度に実施された環境調査（粉塵・振動・騒音、水質、希少猛禽類、ブチサンショウウオ、オオムラサキ、植物の重要な種、法面植生、河川に関する調査）の結果について、事務局から報告があり、委員から以下の意見が出された。

- (1)底生動物については、水質（特に溶存酸素）との関係についても考察すること。また、現存量についても着目すること。
- (2)河川に関する調査については、過去のデータも含めて分析すること。
- (3)河床材料の粒度については、河床勾配との関連性について整理すること。

5. 大山ダムモニタリング調査計画について

モニタリング調査計画について、事務局案が示され、以下の意見が出された。

- (1)負荷源と流入水質の関係について分析しておく必要がある。
- (2)クマタカは、これまでに 2 年に 1 度の割合で繁殖しているため、今後のモニタリング調査期間内で 2 回以上の繁殖を確認できるように調査を計画すること。
- (3)カビゴケの生育環境のデータ（湿度など）を提示すること。
- (4)法面緑化に、アカササゲの活用を検討すること。
- (5)貯水池は、カモ類（特にオシドリ）の生息場所になることが期待できる。また、漁業資源との関係からカワウには注意すること。
- (6)堆砂量は、測量方法により値が異なる可能性があるため、測量方法を慎重に選定すること。また、1 年目に大量の堆砂を示すダムの事例が多いため、試験湛水直前の河床初期条件を正確に把握しておくこと。
- (7)下流河川の河床高は、湛水初期に、大きく変動する可能性があるため、平成 22 年度以降毎年調査を実施すること。
- (8)貯水池周辺の植生調査では、過去の調査枠の活用を検討すること。
- (9)貯水池周辺の生物相調査の実施について検討すること。

以上